青樓新話

# 通子遷

二

へ13
464
2

へ13
464
2

門へ遠13特
號464
巻2

大

青楼選千選　巻之二
新話

第二十二　草

名花傾國両相歓、とゆへとも練ハ殺
ばかりの美人なり。日本づくしの美げしき地
草葉新しかりし。

柳ハ青々を くりなし
金谷の樹の伊の町茶屋のけつらう
酒地肉林。歓楽をとゝのへ、こぐれし廓の

a1

書林 尾州名古屋 大野屋惣八 長嶋町五丁目

ぜんせの。あるじの中うも半まうぎき世界ハ
べうる二丁目客人宝亭と相客
のはのこ男子一のところ廿八九ちさなそ
まうきうぐうまうぐの唐機よちくぶぎぬ
のうら。おうぐ羽織ハ第八上別のまうぐ
いの羽織つまハ宝沢第廿三結城の
小袖ハ紋ハ彩唐のまうちうハ第ハ
紋戸どくの一すハうよ仕そ。羽

織ハ紋戸ゲしの紋つの羽織。
一人ハ太郎そ。年の比廿八九。結城本
ぬんのゆまうふ。ふうしまのひ長
紋戸つひぎの紋付の羽織。いぐまも
あまんど風うそ。伊うのより金うで
ひぬんべうをいぐしてぶうく。
奥山をひやうまうぐ日ハうしまを
世の書盛ゲ。ゑぐ

擬をうけていろ〳〵まねをする〜 青
まきこ〻おろ〳〵さんの七ぶろね 女房 こで今
うちまち〳〵と 太 そこへでもあらう 紀もん
さるの人 糸つくだ たうどれ ツまん それ〻〻奥
母さまの 渡義 をうんとうり 揚ち を引〻うして
客戸 川へ〻〻〻

あそんでゐるこもあるやまぢでこ！おなごくへ百
人（いき）でゐるこ。ぢくく持（ぢ）ゐるやぢ者ア弱（ぢ）へ。
こうのうちやアだらぶ（ぐ）しいぐ。ロろちゝ程（ぐあそ）拾ひみ。
わるくあるこうのアねさ。そのかゝろ。ろちち
のえぐられているこいんんぐろ。トとでのこ
ひろうてうけさちやと
そしてどえのうてもちゝ。ぢしく（トゝうてく
をりのまを）
おろふ 笑 ヲヤおあつアぐろうすもねうトそこま
あつこのうれまうのれまてきやくのとをゝとのくこう
おうくむうふのうこと大いこをゝのいきんでもうかこ



エイうごコリヤサイヤッチヤイコレザイ（トとふられたづくをてあそこのこ）
ぢうう モシ（ぢん）ぢてえはいそれまゝぐぜ 客
れうう（ぢうう）く（ぢうう）ぐんなハれ和大ぐんこねぐと
ぢ そこで鬼ろ（ら）とのまゝてやろゝいろ
ちやうら 客 おきやアがれ 乞ど人 ヤッチヤイコレザイ
ヨウテウ エイうごコリヤサイ〳〵トちゝとゝんで（ちるよりるる） 青（コウ）
ぢ
ぐこきんんわへ（ひなう）音中ごのこれとあげていく
ゆうぷこるろうのえもまでぬうれうくまめいぐ。志ろ

ヨろちゝもあというちゝぺんハ（の）ぞるゝんぐゝ。
あのてんもあゝやゝしぐ。今ぢゃァつゝがたぢ
い糸トばくちゝーの内まゝ車のきを 車カ アウてそぐゃく。
ぢゝまゝやゝ。そこぐゝ。お客ぐ。いるぐゝや。うゝぐさの
ぢきゝゝハ。のろまゝ。ゝれぐぐぞ。ぐうまん。ゝきいへ
アゝウ〜ヨウメカ〜 トゝるゝまゝこのハゝるゝねぐ 書アゝ
ぞゝもこんるあのゝとゝゝいゝのぐゝ。今ぢゃァ
あゝもこまくゝゝゝでぐゝ。この世ゝやゝ。茶やの



茶ゝとゝゝぐゝやァゝ。ゝゝへイヤゝぢゝぐ。
のいゝのと貧とんぐゝゝゝゝぐゝのゝ。
のゝ。ゝぐゝゝ三ゝゝゝゝゝゝゝのゝ
でゝゝゝこゝせゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝでゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝの
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝちのゝゝぐゝゝゝの用ゝゝゝゝゝぐ
くぢゃまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ。コリヤアごこそこの家が上こうこそこうこ
そこァ。月花と人ゆも。きれるこうこのんぐる
よりてきうくゝもとこきへぐこおちと。ゝこと
とこそこうがあこうゝ。又そのこというゆやァ
ゝこう紙へこうへうのでゆ。女郎も茶屋もいま
おやァわひがおれるのさ 宝 ゝうやどさこうき
 青 ゝこ上ゝうこうゝァ又そこいこてんかきこて
もでなやせんなどこいるせへ分でも大



いをへこうゝ。ゝもゝへきこうて。きゝ紙へちやなァ
紙へりんぐこうゝ。ゝこうんの口へ人のめふこうよこ
なこゝもこきるゝ。そここうゝゆへきゆやァなこうわ
こいこのんぐこうゝ。ゆへこうゝもゝこうゝでこの
そこうゝゆこうがいのさ 宝 きゆこうゝ。なこうゆど
あこうこゝ。ゝ近分ぐこゝいがいがゆのこうこに
こうぐこもこぐめて。ゝこどて作ゝてどぐこうませこう紙
 青 ぐこいこんきのこいこてわゆをあここでもでゝぐ

きびやうと 宣 私かも うるさいちご。あそこの
うちへ入りやうやうとうくさとらくいらげど 廿四 さを命令とろかいろや
ちょっとちょうるさされます也 九子氏 ハーちさむう
ござる やまと 文 りっちゃくさんのおうるさごど
ざる ちょっと 九 ハアそれハ仏ぐ佐 佐わんるさい
ヨセトとあてやいづ ちくとしてとうる 女 今ありるこそ
ぶ。おわんさんのとこのおたるすさ 九 へいそれハ
トゆつくこれども ちづうなのきちゃでなーどくくそれハ
見ろいろうのきちゃいさーろよそれどくどーこおぶあれハ

ちょっと出やんるさうまやと 宣 ちょっとうるさあるモシ
ぶーつけぶぐ。あるうるどーふう。おこうけやと
よっておてござる ちょっと 九 ハテどこでで
おわるぶぐさぐりさてもあらう 女 ちゃぶう
さぐるさアん 大 おやまかるも。やさぐるも同
てござる 青 ちょっとアる中。るうとんでる
りんざるぐ。ぐさてもありやせう トいきもるいぐ
てごじゃアわく。 ちょっとひるから 九 あるるもさよふぐ。ちょっと

是程おもしろい世界の時分に 宝 他国
所の盗人さんとおりゝのことゝのつゝこぐおり
ゆーさ カ さよおゝくゝ こゝろつゝへるせるきゝゝゝ

九 ヨろちもろ〳〵りよりうやせう、〳〵〳〵トこらろて。つれづれ歩けるごろ中ワ千のりーき、又ちろきらいたるいぞ死の居ひる柳日ぶりて遠ふ。風のこ村わうろふ。武八秀の独酔巾。よろの梅ぐ〳〵ちさひる。ろいぶ子の姉のぞ死

庫留理 都ゑ孟系原大全 三ーぐん目のにまく

地異伝吉

中の下のくさとろよそ。ヨろおきろ。ろちゃ三重ろ〳〵

さきゃ。ア。ハ〳〵り。あぎゃ孫のざア。さる松わぐ。

ヨ〳〵ろうがいろ見

円展 代ぐん。ぐ。鎌のやろふ。



ろり殺〳〵て。ちゃやる 同八 うあの猪冥れ

のあ〳〵ぐんと見ろよ。ぐ。角ろう〳〵ひんぐれ

そ〳〵やらうろぐろちくゆきゃ。ぐりさ 偽 ゆの

巻のろうく 八 サアちゃ。きゃる。トきゃひろうちろ

ろ。又ま吉生と見ろ。天づれ。おのしまぬぶひろ。あ〳〵ろ八つわぐ。ア八ひろろ

ろうぐるしておろうぐ。ぐ。ア八ひろろ。ア八ぶろろ。ろ。ろ。

玄 あぐ〳〵てゝ。袁中おのづゝ。殘なゝご

頁 そこゞ所謂。君子ハ色き示ちゝゝざそご。

世ちゝ〳〵 玄 爻でこんるこゝとゝゝても。俗物

ゆゆァ解せ紙〳〵大口〳〵ひざサァこゝゝ

ゝゝトこゝゝのびゝゝゝ

いろアトまるうめこうもとまちもとまちもとまち

まぶあきれ〜ァ 松 まれぎ〜ェあくきわて
ェまやる 吉 をそうとのあさぶる きょう〜ぶァ
あァやァそうやいそ〜 松 るむさんむ〜さんも
いって ェまるつぶ ェきにきやるぶつとひ〜てやらよ
い いんにせいたい ぶェぶを ぶを ぶむこせ 九 ェまん ェまさんぶぶの
いぶやの男さそうちんとともこせ
ところでぶぶうやまぶ 宮 ちんよぶうきのェねし
へどよぶろり 九 モミ 提灯でぶぶりまきよ外
あとくぶり さろきぶェさろうぶぶこぶい〜ェろぶェ



ちょうと 獲とうけぶぶいぶ〜んのるうさ 宮 アりや
ぶれぶぶ 九 玉川さるるとうぶェの内の一まへ 看ん
板でぶぶうまるてぶぶるまま 妙 るぶぶぶ
ァまるるァ玉川さるぶぶ。あるぶとよくはる
で。ぶぶうらぶ内のかりよるるおれるーぶ
あるかーぶ。ぶい〜ぶ。ぶいぶるはもうけぶるりまも
なんぶぶ。ぶるふ〜ろぶ。ぶ者へァおい〜んよるぶれ
まるもねろ 宮 ちよさ〜 九 ぶんるる〜ェァおいで

ちさされすも 宮 青貸さんてふいとやせう

青 どこでもよのし〳〵 九 入〳〵つ寄りすせト

浄留理 あるくと五十万物の。花も五葉ふも色

あやねつるとへばゆもめくさんの松附斗ら一ツ物

の芋花ちとやのぶ〳〵ん

第二章

遊廓いごうぎるやらいかなと云ひ通へば久

ひろ〳〵いふ。弟舌接の下ろまくこせよ浪井

の荒極とらやぴ内宵ハ万牝星のらくくつきいれ

ろ板のろまかぶ死。大ら〳〵極と陰〳〵て貧

情つてくるうの。又情つてゆる張人のつこ

まま〳〵ふ。千夜の小刺こぶけているぶやくはて

ひみ〳〵の蒲山ヒが宮ふもお〳〵ぬ京の張

二階の掛ふ〳〵掛よひろく節おハそよ長

くしてあこらもふ長的の掛弓こせまと

ゆ〳〵千と 宵ヒレ アイ〳〵ヲ

いわ〳〵すーぃぐ三ぢ〳〵ぢもぐ。こんるものとあつてし
ておきやァぐれて。コレみぐりやァ。きまやごとな
ぐ〳〵こァくまわ〳〵 三〳〵 イ五 老巳 いっぐーやァある
わ〳〵いっち大きるざ。ぐ。ぐ。ぐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ハ、ア、ゆ 笑 喜助。うわくのるゝちゃと
ゝれろく 若 さゝあげませう 笑 ぐんるまで
ゆるへそのろく。ゆゝ
ゝくゝいのさゝゝ 笑 ちげやまづゝアど
ゝくのゝさゝ。こゝぐるゝゝ 笑 こゝアあるゝ柳
さんのゝこざんさて 笑 だゝアいゝ。ちげゆまの
ぎゝかゝゝあまア どゝゝしてゝるゝかゝゝをの
ゝゝゝゝゝれがあるゝ 客 ぐるゝと 笑 ハイこれへは

めんるさい おゝゝれゝゝる川 ○ 仮 ゝを抜もゝ川
ゝゝのゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝのゝ体もちゆんゝ
きゝあげ。ゝゝ既もごんゝ。打 おさゝて立
あがれば。ゝゝゝの抜るゝゝ山のでゝ。
おさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝの内ゝゝゝ
ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ずんのようをうけとりてそ。玉のべ。なぜごすうておいで
なるんさそ。空ごようもぞ。なるもいつまでぐ祝へうさ
玉ゆ（おいでなれしちやア。そのぞもおざん
さとわ（ぐぞとていりさと（おゆなんべと
のんでざんをう。そのそぐでざんをよ。空
さどこもぞ。ゆよいくとろいなるさ。玉うを
とおつれなれしぞ。（とりやアそのべ。さへれ
ちをたさんよ。ゆぐやいべさうゆとおきて



るんしさろく。空イエカをぐなんどもいやや
せん。玉ンントコロヘひるぐ。おめ（さんのゆぐどこで
ざんさ。空されべどごろけろ。玉おおしし
なんをよ。ゴさて（ぐあて（ぐ。ぐ同るゆけの
ちあう。あぐのゆ。ぐんやろ。孫。空アイマア
そんるのさ。玉ゴさて（やア。おゆ（さんの
しをとろく。ちゆておりいをよ。空ごゆて
玉ゆ（のまく。ぐあんなんをおゆんをゆア

且こうらぶ叙田さんのとこへもよくおいで
なんしさうら 宝 そうもぞそれで来れさおいら
もぜんてぶさよふぶこ参りさうこぷろく
さうぶらうぶんぶさいさのさなるわどおめく
のおだきんのとこへもいぶゆうさぞぶんい
うこうおめくのぶいおとうさんとこぷいろ
けの 玉 よくおだくてお出なんをよりホ〜〜
山おいらん日おいそうおふよ〜〜むさあるよてさ叙
まとられておだのうさまそそぶそられしておだくのよい



この宝こうぶきんさよまりておれうしいぶもおくろ
よゆうふれしいめあうこのおのいうんそのおたの方よてそさこ
ゆへ宝こうぶし。ぶえあうこそらうし 宝 こいうアぶ娘くおめくぶこうう若
ようふとこぶおのひもはこうわくこのいうさぶ色
これもぶおろくのこうろぶこうぶろふさ 玉 なんま
こういふ方よなのういうさもぶこんくはけ合
のあうてぶさんさぶよんどころ孫くおこうで。
日ぶうの孫んでぶこうあういうこうこうりよ
ふんぶ 真 の七月ハ孫あきいき このうハうこうこ
まぶこうわん

たろうはひつくりかへつて、あれども、ぼうぼうとあれまはりて、
ぐさぐさ、ぐそぐそ、こそのら、色男のこころぐ、お
はぐろの、玉ナニヨロチ〳〵ぶつ〳〵のみりのぶ〳〵
ろへいりれいさそ、めのぷんは、ゆゑふもちうわ、
ぐぶい〳〵ゆ〳〵ぐ、ぐよいし、さ〳〵ぶ〳〵のきま
入いさそ、ゆ〳〵ぷ、ぷんまもちいせんりんで
おざんさこの〳〵ぷ、ちゃらはなろておこんなん
さ〳〵もおざろいせんぴ〳〵りのおざさんハ



おゝ、ぼ、やゆ〳〵ろりなんてぷんはゝさそ
さ〳〵ぶ、ぷ、ぷのよ、ぐ、おざろいさ、ト、ぶ、ぐ、ぶ、ぐ、ぶ、ぐ

ふひ[illegible]ぐまそく[illegible]
あどり
井戸[illegible]
ちゝぶうらゝあるん

国 ムそのゝ[illegible]
[illegible]大市さん以
定 そのゝつひりのまゝ中[illegible]大きさ[illegible]塚のある
[illegible]とい[illegible]彩の按ナろ。アリやう玄年[illegible]の内さ[illegible]
[illegible]とろけゝ。月が[illegible]ろけゞまゝ[illegible]ねゝ
うゝて今ゝゞやう乞食ゝ[illegible]ゝわるをいそゞ

通子遷巻之二終